

新型コロナウイルス後遺症（罹患後症状）の 実態調査（第2回）結果について

調査の概要

1 目的

新型コロナ後遺症(罹患後症状)の実態を把握し、相談・診療体制の更なる充実及び県民への啓発に資する。

2 対象者

2,623人

〔新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)のうち、各系統・年代・性別・症状の程度に偏りなく抽出〕

患者発生時期	抽出数	備考
R4.1月～3月	849人	オミクロン株(BA.1系統)主流
R4.4月～6月	891人	オミクロン株(BA.2系統)主流
R4.8月	883人	オミクロン株(BA.5系統)主流
計	2,623人	

3 調査方法

インターネットのアンケートフォームにより回答(一部、郵送により回答)

本調査は、医師の診断によらない対象者の自覚症状に基づくものであることや、後遺症を有する人が積極的に回答する場合があるなど、結果に偏りが生じている可能性があります。

4 調査期間

令和5年2月1日～2月14日

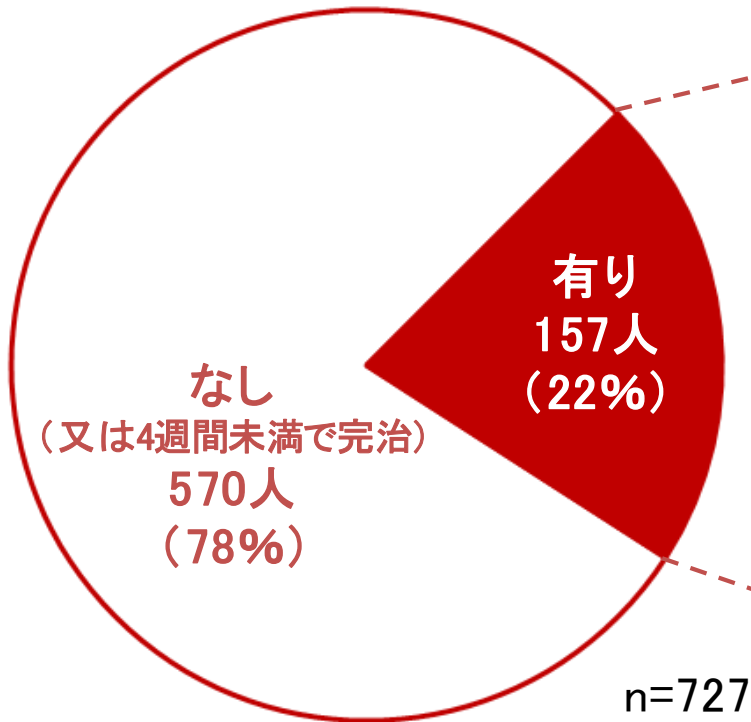
5 回答率

27.7% (727人/2,623人)

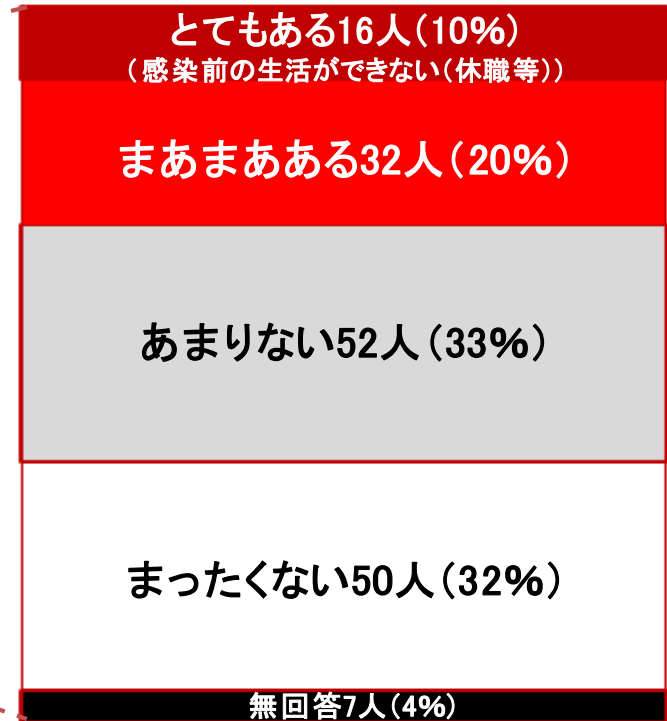
年代	回答数	母数	回答率	内訳 男性 女性	構成率 (727人)
全体	727人	2,623人	27.7%	45.7% 54.3%	
10歳未満	92人	378人	24.3%	43.5% 56.5%	12.7%
10代	77人	321人	24.0%	59.7% 40.3%	10.6%
20代	58人	390人	14.9%	39.7% 60.3%	8.0%
30代	92人	356人	25.8%	41.3% 58.7%	12.7%
40代	108人	340人	31.8%	28.7% 71.3%	14.9%
50代	77人	266人	28.9%	40.3% 59.7%	10.6%
60代	96人	200人	48.0%	57.3% 42.7%	13.2%
70代	82人	183人	44.8%	59.8% 40.2%	11.3%
80歳以上	45人	189人	23.8%	42.2% 57.8%	6.2%

後遺症の有無と社会生活への影響

【後遺症の有無】



【社会生活への影響】



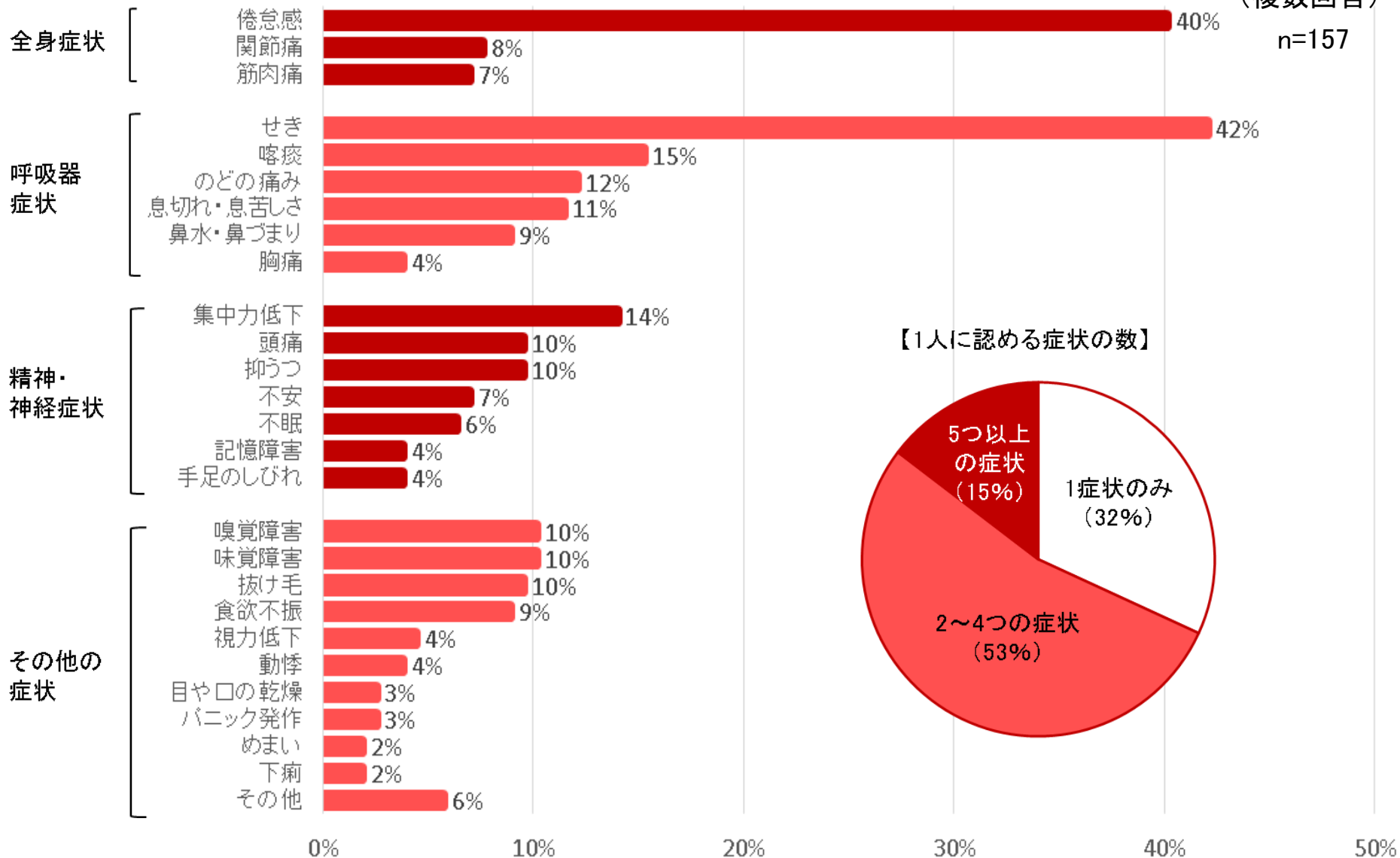
※ 本調査における新型コロナ後遺症の定義

- ・ 感染時の症状が、療養解除後も4週間以上続いたケース
- ・ 療養解除後4週間以内に発現した症状が、4週間以上続いたケース

後遺症の症状【後遺症があった157名中】

(複数回答)

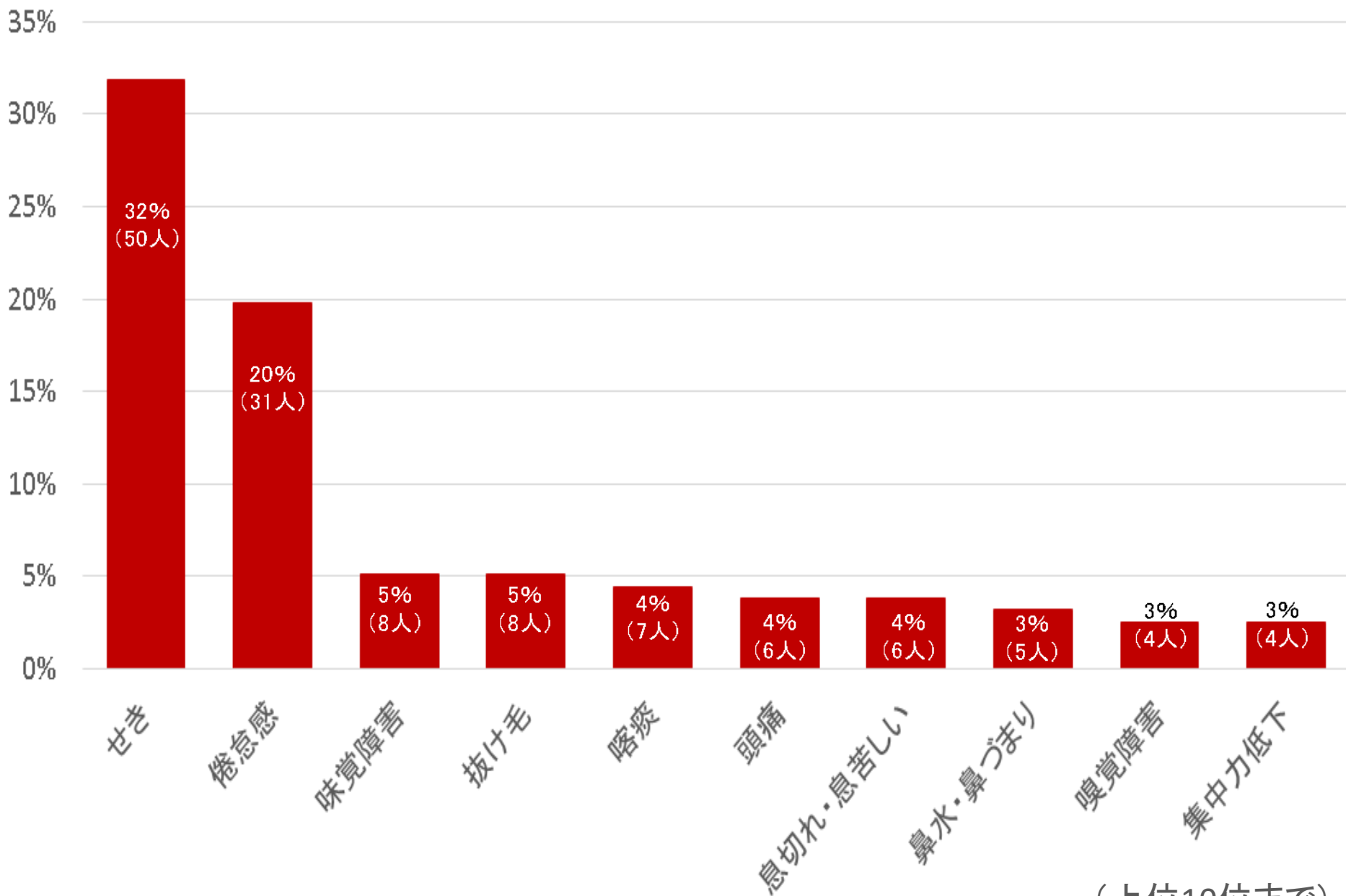
n=157



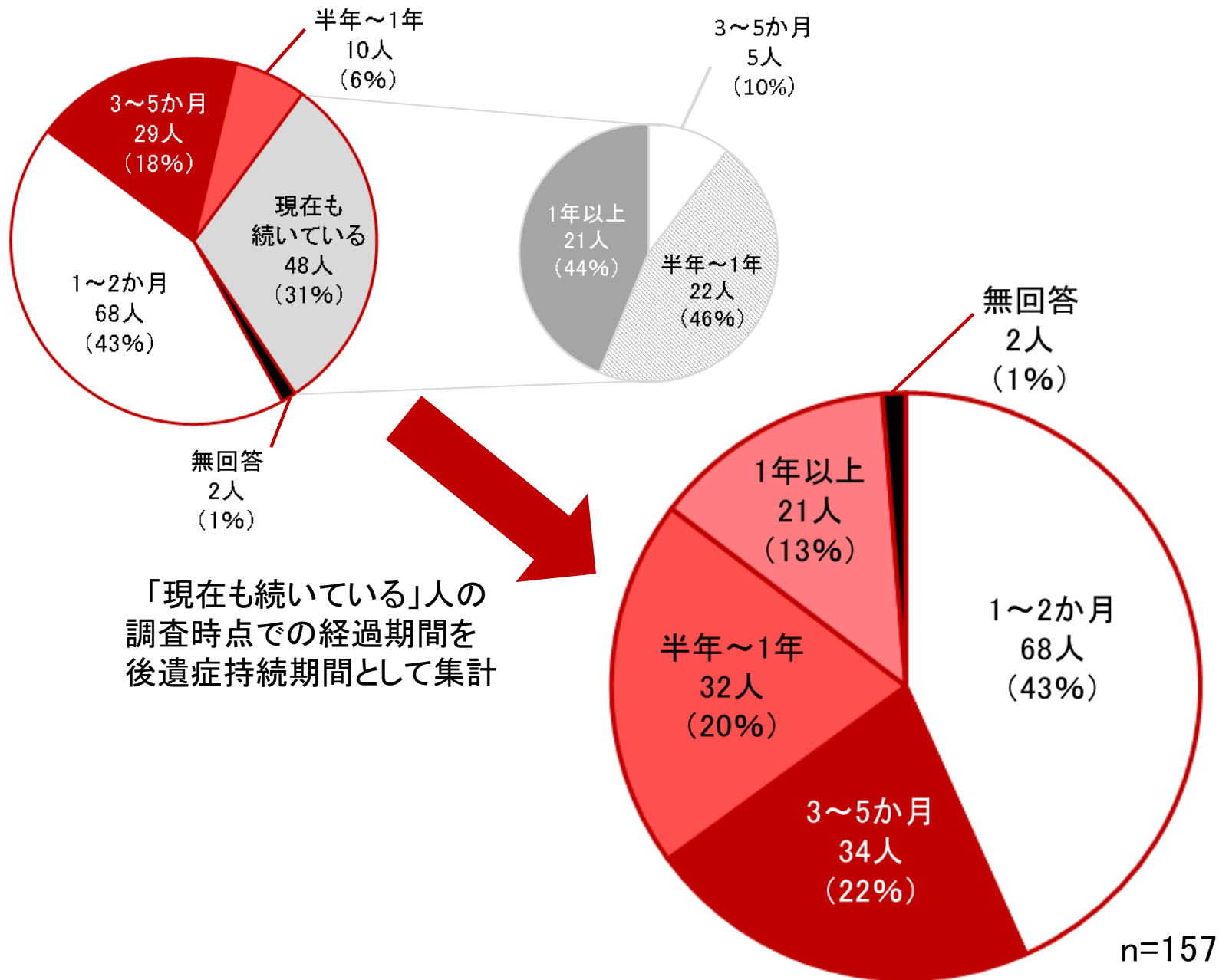
※ その他：目の充血, 腹痛等

アンケートでは、これまで報告された頻度の高い症状28項目について調査

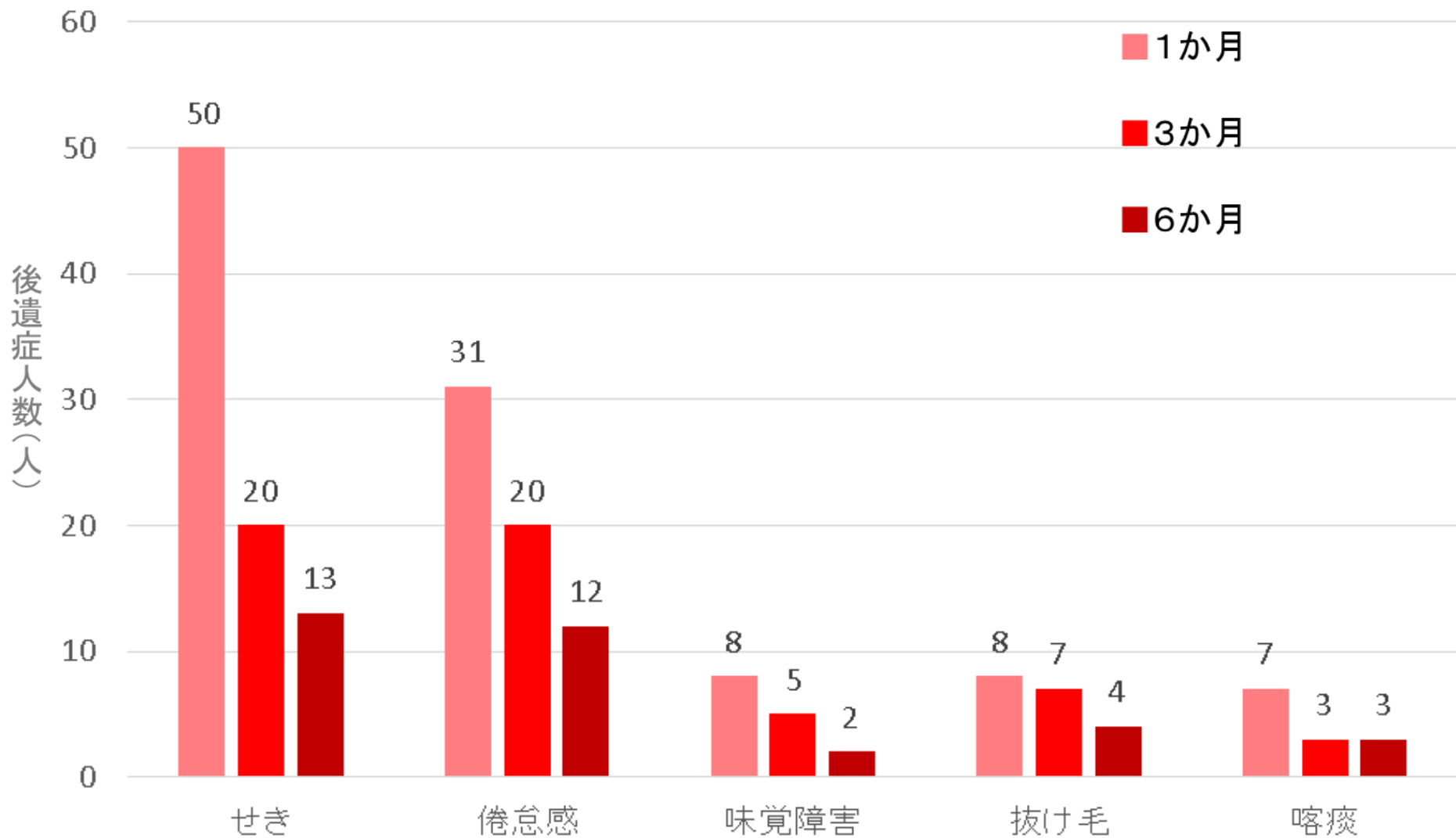
最もつらいと感じる症状



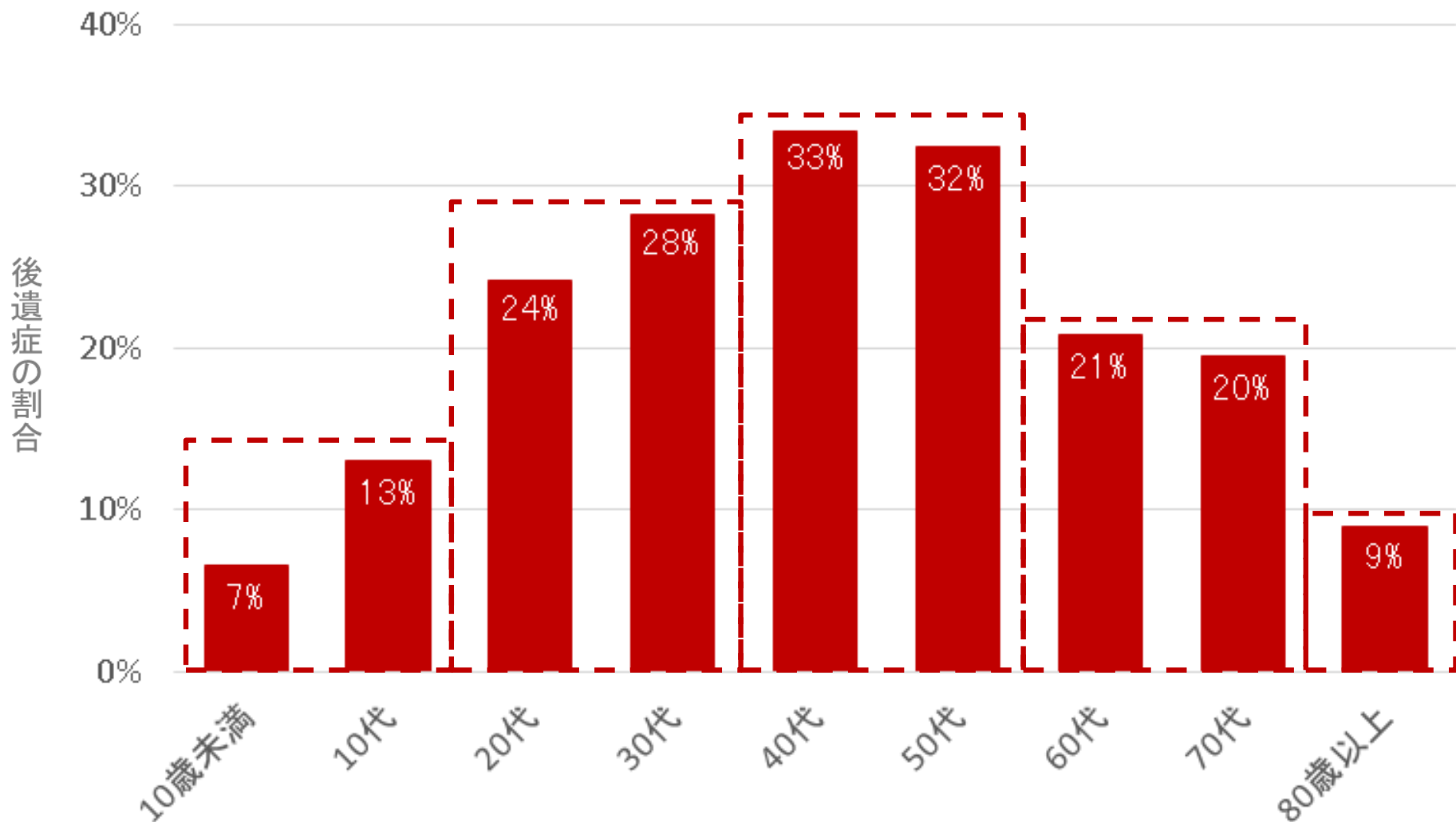
後遺症の持続期間



「最もつらいと感じる症状」の推移

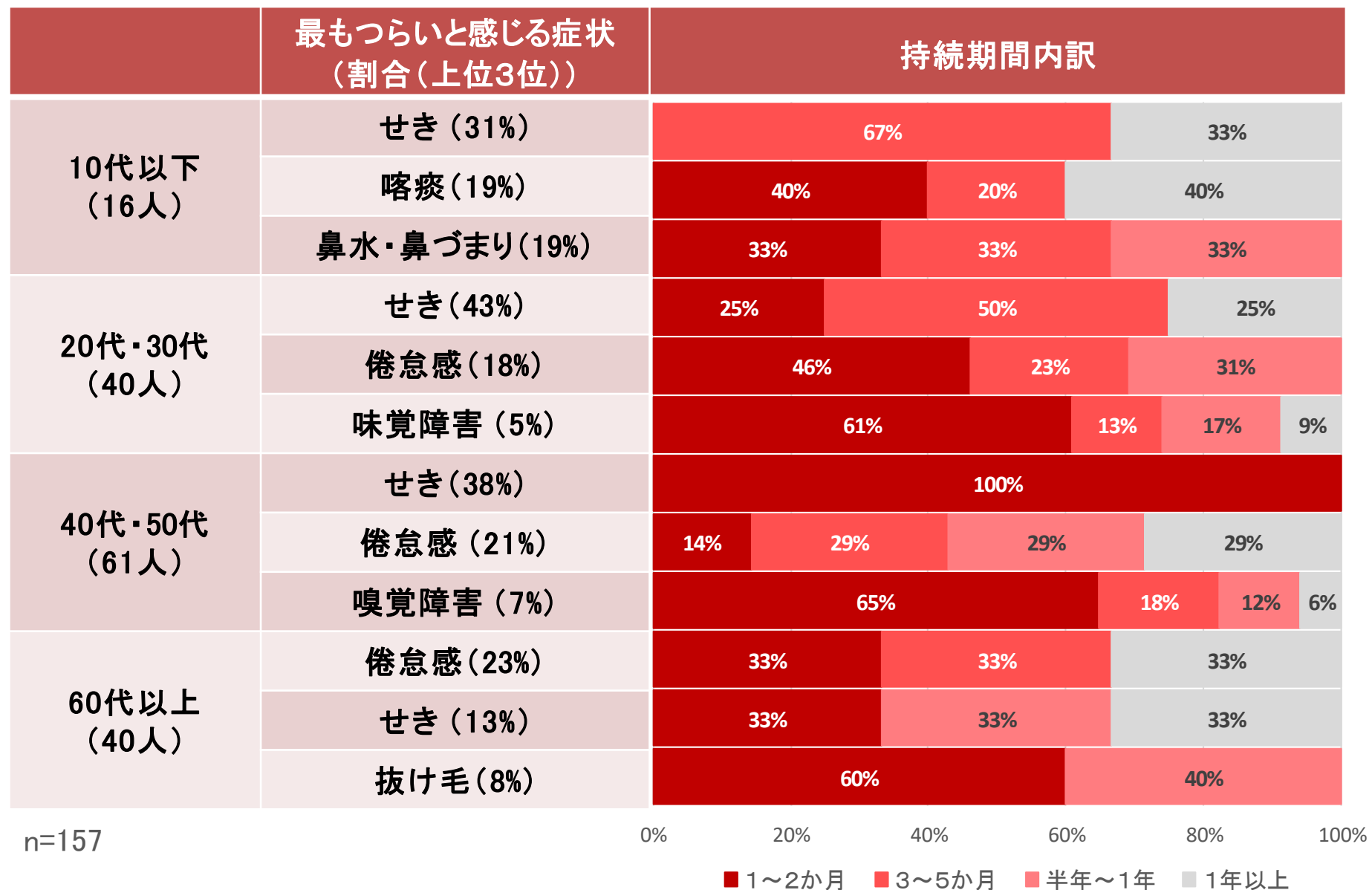


年代別の後遺症の割合

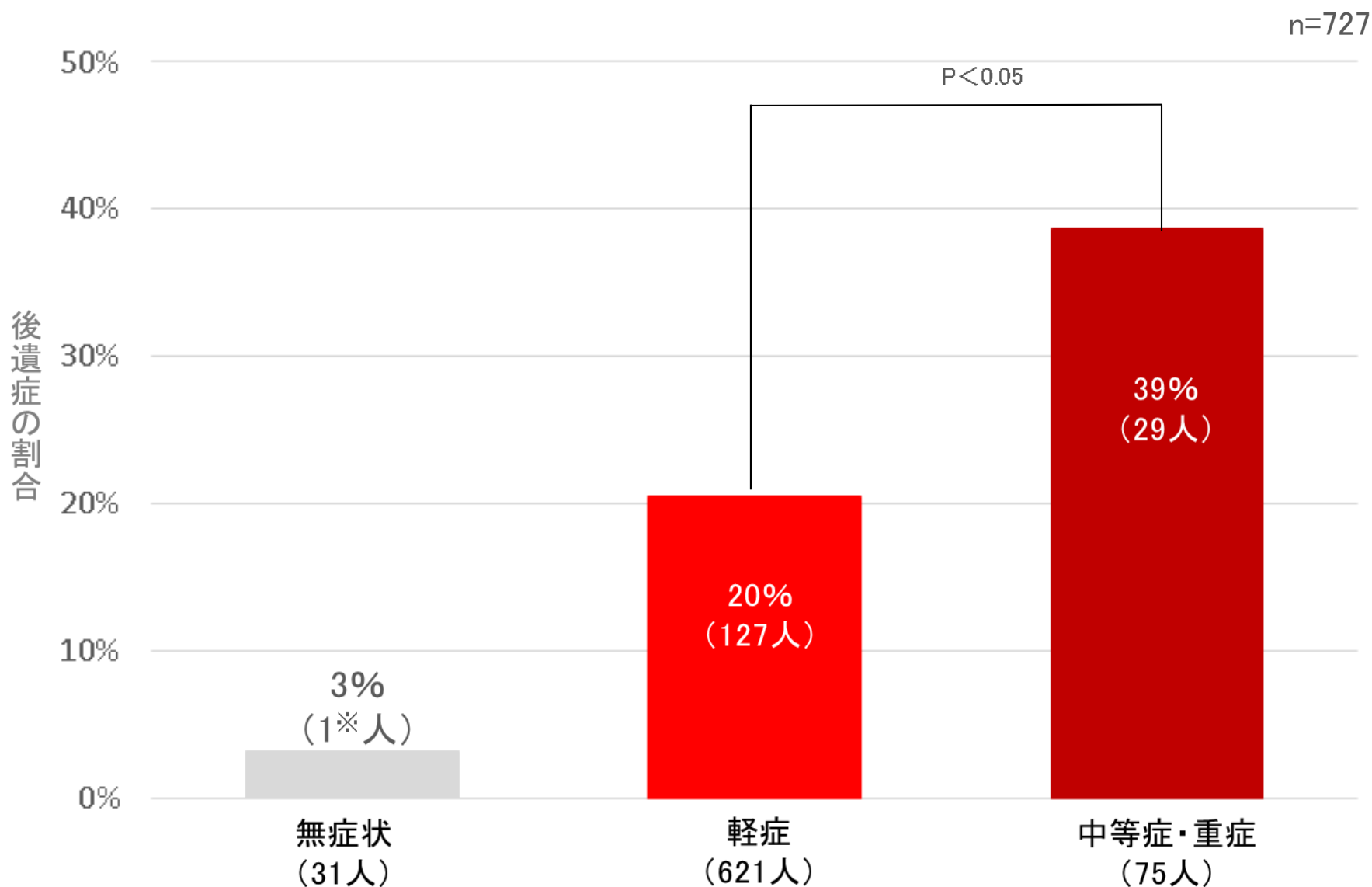


各年代において、性別による後遺症化率の違いはなかった。

年代別の後遺症の特徴



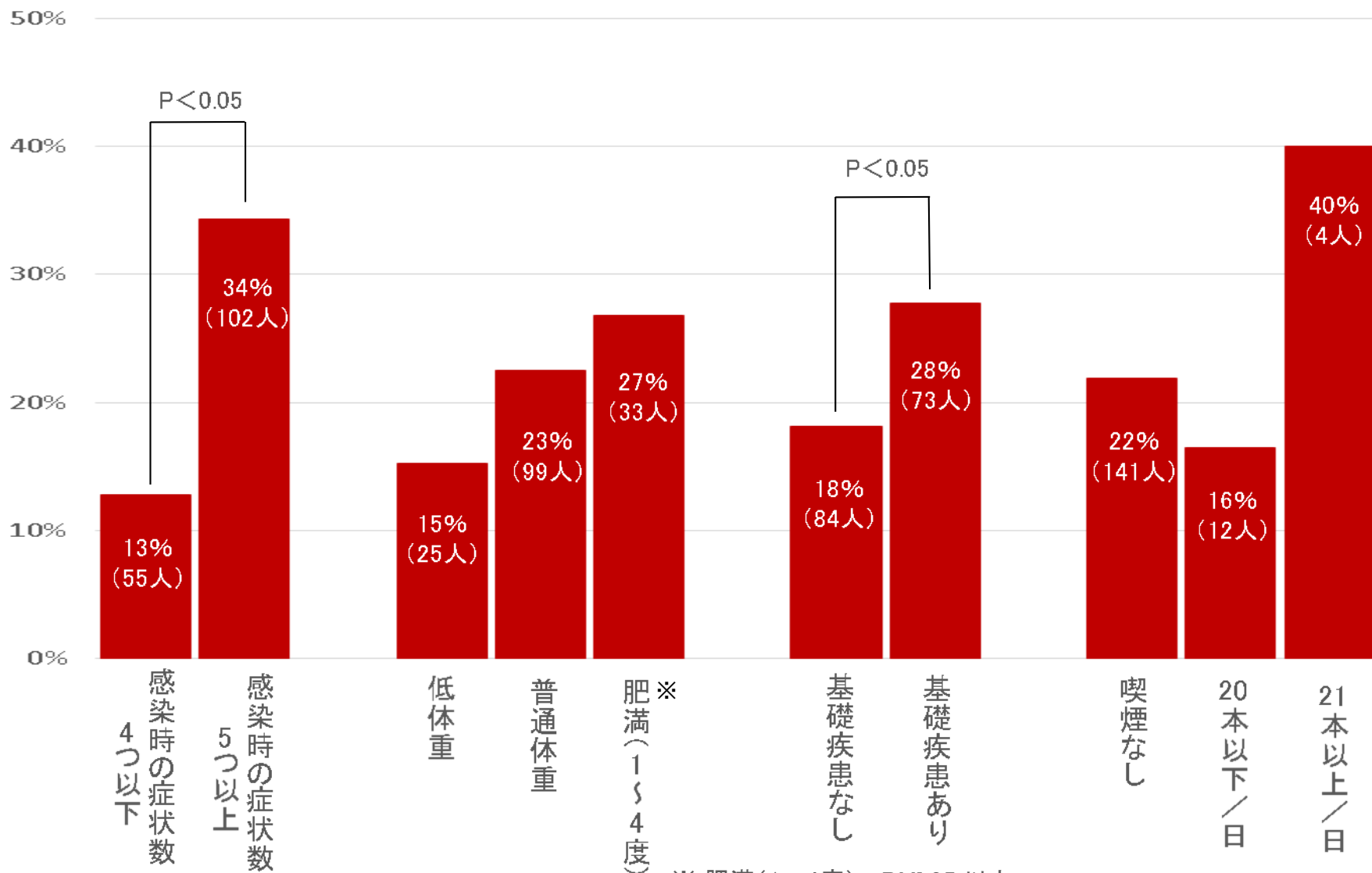
後遺症を有する人の傾向（感染時の重症度）



※ 感染時に無症状でも、療養解除後に発現した症状：倦怠感

後遺症を有する人の傾向（その他）

後遺症の割合



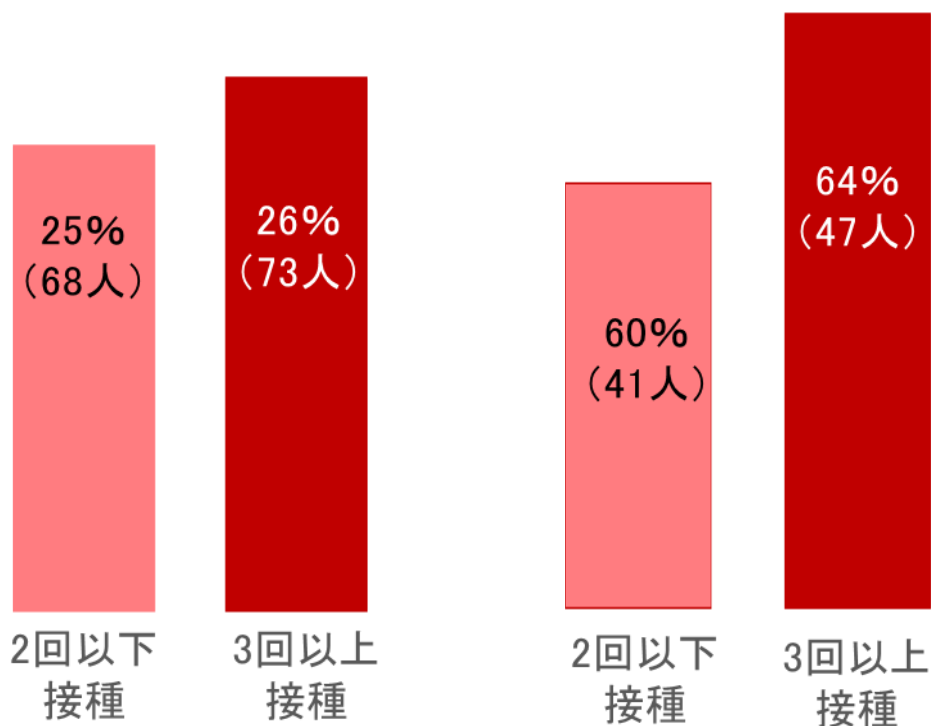
※ 肥満(1〜4度) : BMI 25 以上

ワクチン接種の状況と経過

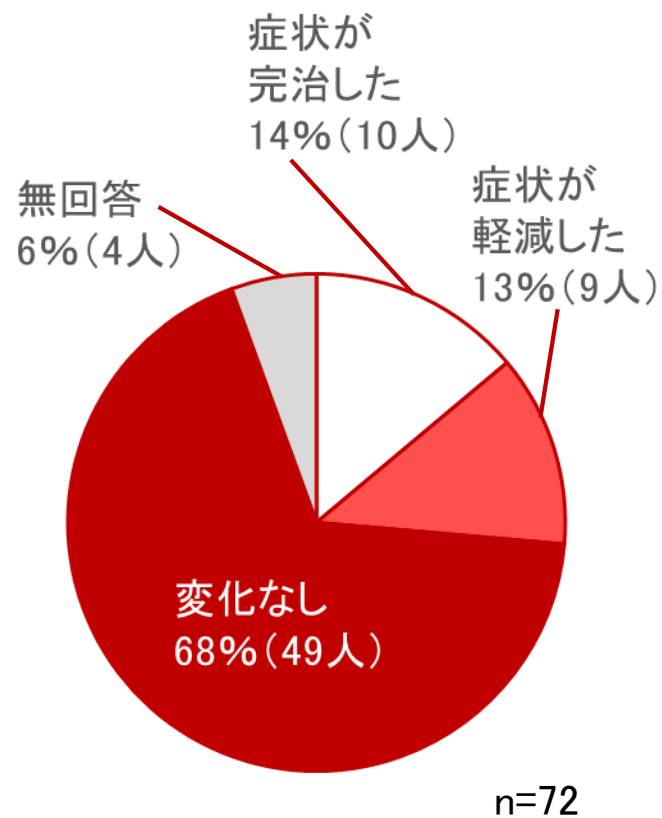
感染前のワクチン接種の効果

(後遺症の割合)

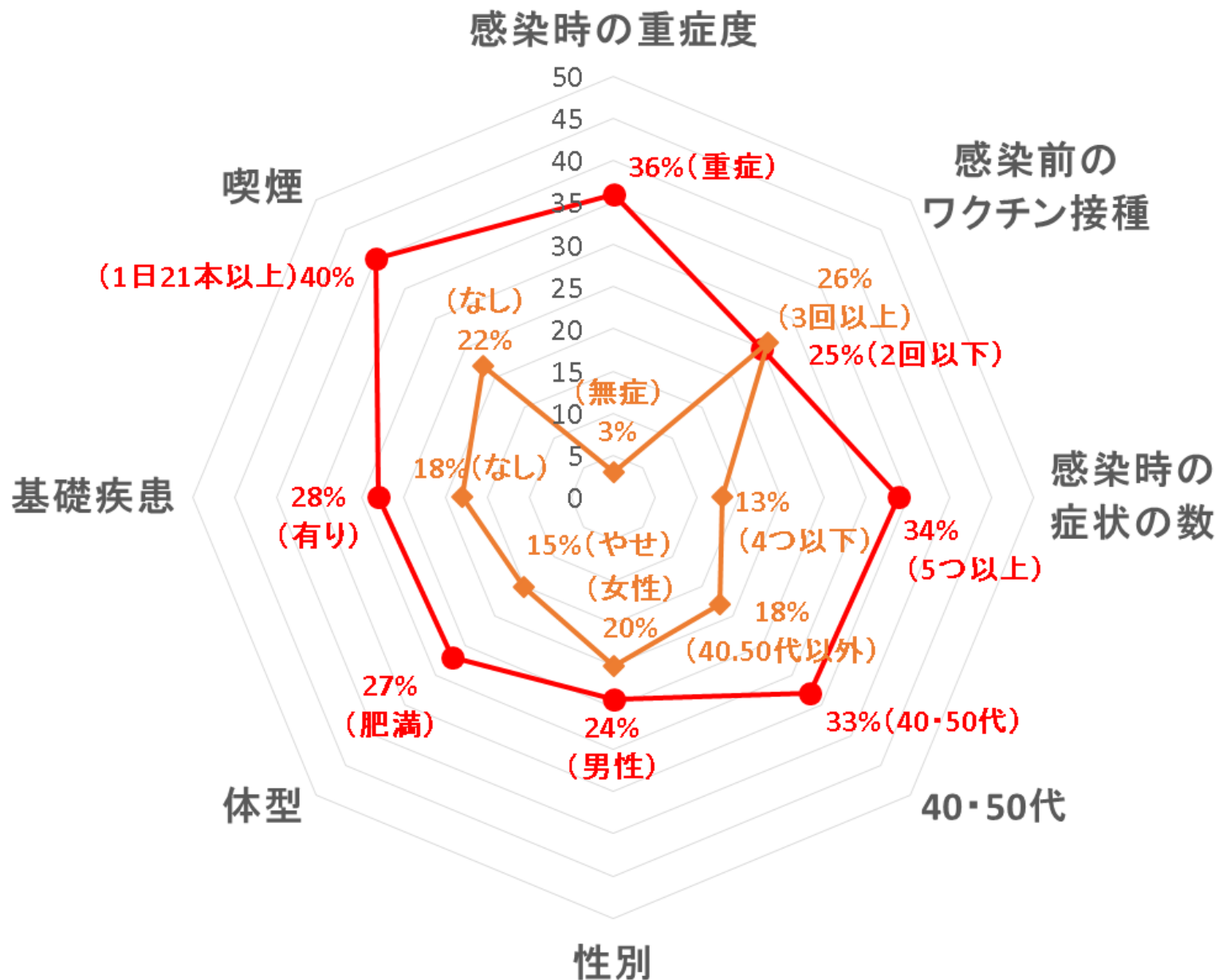
(半年以内に後遺症が改善した割合)



退院・療養解除後(感染後)のワクチン接種の効果

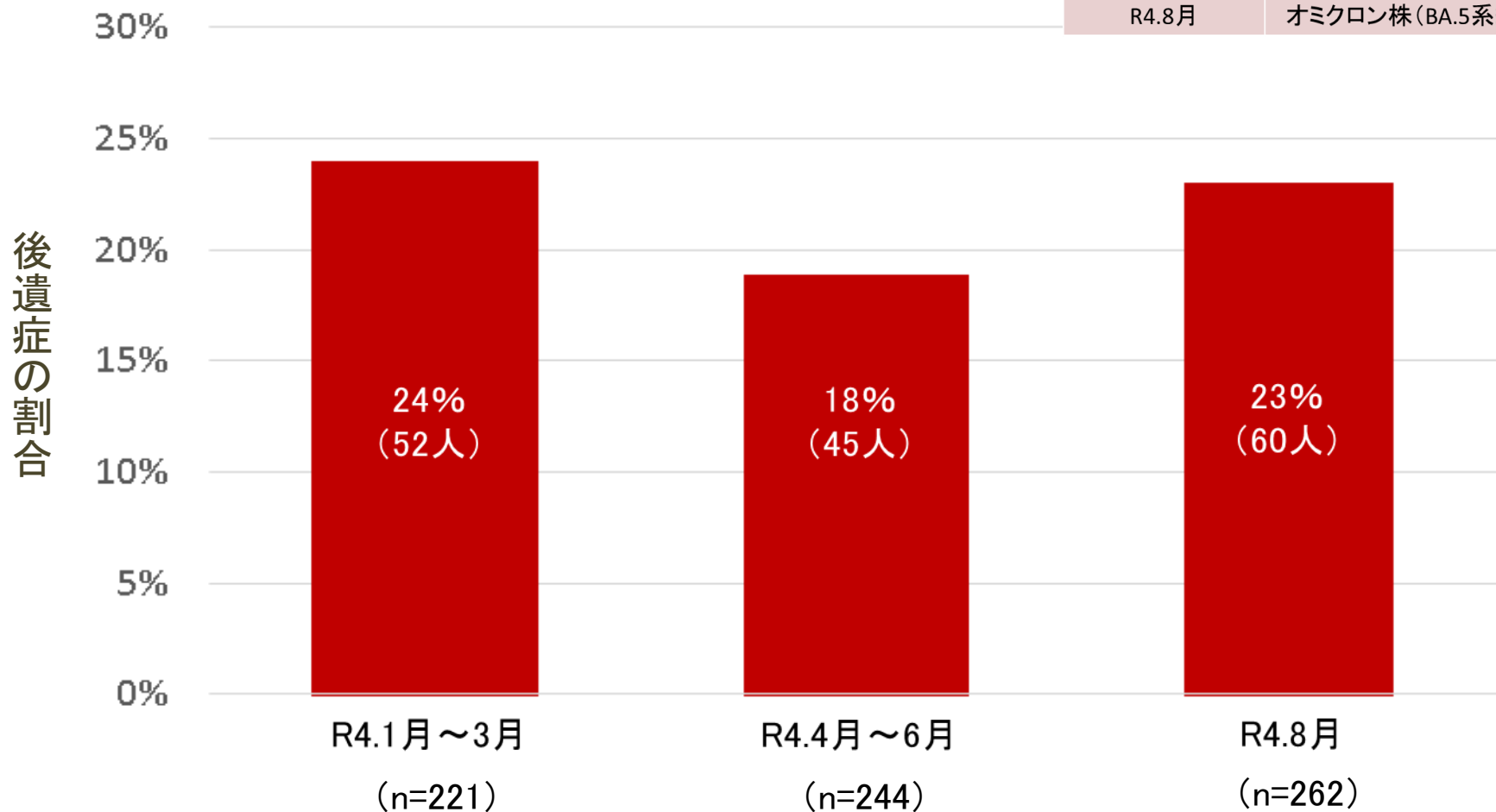


後遺症を有する人の傾向（まとめ）



感染系統の違いによる影響

患者発生時期	株・系統
R4.1月～3月	オミクロン株(BA.1系統)主流
R4.4月～6月	オミクロン株(BA.2系統)主流
R4.8月	オミクロン株(BA.5系統)主流



まとめ

- 今回調査の回答率は、27.7%であった
- 新型コロナ後遺症があると回答したのは、全体の22%に及んだ。
- 後遺症がある方のうち、社会生活への影響は、10%が「とてもある」、20%が「まあまあある」との状況であった。
- 後遺症の症状は、40%が「せき」、「倦怠感」を感じており、次いで、「喀痰」、「集中力低下」、「のどの痛み」を感じていた。
- 症状が一つのみの方は32%で、約7割の方が複数の症状を感じており、なかには診療科を跨ぐ症状を感じる方もいた。また、複数の症状の中で、最もつらい症状は、「せき」、「倦怠感」、「味覚障害」、「抜け毛」などであった。
- 後遺症の持続期間は、調査時点では、「1～2か月」で完治した方が43%、「3～5か月」続いた方が22%、「1年以上」続いている方が13%であった。
- 年代別では、「40代・50代」が後遺症がある割合が高かった。
- 感染時に「中等症・重症」であった方や感染時の症状数が5つ以上ある方、基礎疾患がある方は、後遺症がある割合が高かった。
- ワクチン接種による後遺症の割合については、接種時期と感染時期との間隔にばらつきもあり、有意差が認められなかった。また、感染後にワクチンを接種した場合、14%が「後遺症が完治した」、13%が「軽減した」、68%が変化を感じていなかった。
- オミクロン株のBA.1等の系統による後遺症の割合には、有意差が認められなかった。